

## 2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (憲 法)

---

第1問 (配点：50点)

次の(設例)を読んで、問に答えなさい。

(設例)

2016年、A内閣はB国との間で集団的自衛権の行使に関する密約を結んだが、このことについて国会に報告していない。C新聞社D記者(女性)はこのことに関する情報をさるところから入手し、この確証を得たいと考え、同窓会で遭遇したE(外務省勤務。男性)に個人的に話をし、「国民のための報道を実現したいので、この密約文書のコピーを入手していただけますか。あなたに迷惑がかかることは絶対にしません」と申し入れたが、Eは「全く知らない」と応答した。

Dはその後連絡をとり、熱心に「国民のための報道の実現の重要性」などを繰り返して話し、説得を続けた。そして、会合を重ねるうちに二人は極めて親しい関係になり、最終的にEは密約英文書のコピーをDに渡した。Dは「密約英文書のコピーの一部を含むBとの密約関係記事」をC新聞で報道した。捜査を経て、Eは秘密漏えい罪で起訴され(国家公務員法100条1項, 109条12号参照)、Dはその「そそのかし」罪として起訴された(同法111条参照)。

Dの弁護人は、Dについての本件処罰は憲法21条1項に違反するので、Dは無罪である、と主張している。検察官は合憲であると反論している。

[問]

Dの処罰の合憲性について、あなたの見解(=あるべき裁判官の見解)を述べなさい。

第2問 (配点：50点)

憲法改正における限界について論じなさい。